

1 地区研究集会の概要

- (1) 期日 平成28年9月9日(金)
- (2) 会場 妙高市文化ホール他
- (3) 日程 12:30~13:30 受付
13:30~14:00 開会式・全体会
14:00~14:15 移動・休憩
14:15~16:15 部会

2 開会式・部会協議の概要

(1) 開会式

来賓として、上越教育事務所長 佐藤幹夫様、妙高市長 入村明様、妙高市教育長 小林啓一様、県中学校長会長 早川義裕様をお迎えした。

はじめに磯貝芳彦県小学校長会副会長が、「学校は特別の教科道徳、外国語活動等対応すべき喫緊の課題を抱え、校長のマネジメント力が求められる。『学問は人間を変える』という言葉があるが、他人を変えようと思ったら、まず自分が変わることが必要である」と本研究集会の意義を述べた。続いて、川住晴彦実行委員長が「4年サイクルの最後の年、校長を主語にした実践に学び合い、学校経営に生かそう」と挨拶をした。

来賓を代表して佐藤幹夫様からは、「上越地区はカリキュラム・マネジメント等、全国をリードしてきた。そこには、常に教育課題や子どもに『正対』する姿勢があった。山積する教育課題に正対して取り組む校長の姿勢が学校教育の原動力である」と校長のあるべき姿と期待を述べられた。

また、入村明市長からは、「次世代を担う子どもが輝くよう市政に努めている。自分を大切にできる子どもの育成が基本である」と激励の言葉をいただいた。

(2) 部会協議

会員は事前配布されたレポートを読んだ上で部会に臨んだ。当日は10部会に分かれ、前半は校長主語のレポートの説明を、後半は司会が予め設定した2~3の協議の柱について協議を行った。和やかな中にも活発な発言で、互いの実践に学び合う実り大きな協議となった。

第1部会 学校経営

1 主な協議内容

- 校長の教育ビジョンを実現する組織・運営体制の構築に向け、職員一人一人に自分の役割を認識させることや、職員のモチベーションを高めるため、若手・ベテランそれぞれに適した観点からコミュニケーションを図る必要があること、さらには、校長の経営方針を分かりやすい言葉や絵・語呂合わせなどで職員、児童生徒、保護者・地域に示し、共に歩みを進めていくことなど、チームとしての学校づくりに必要なことについて話し合った。
- 学校評価を生かした特色ある学校づくり・学校経営を推進させていくためには、児童も職員も元気になる学校づくりを、校長が率先して行うことの大切さに、皆が共感していた。

2 課題等

- 保護者・地域と共に歩みを進めながら、地域づくりを視野に入れた学校経営を行う必要性が課題として挙げられた。

第2部会 教育課程

1 主な協議内容

- 教科横断的な教育課程の編成・実施を充実させるためには、知識理解と資質・能力の関連性を構造的に表したカリキュラム表づくりの重要性が改めて指摘された。
- 子どもに育てたい力や身に付けさせたい資質を育成するために、どの教師もカリキュラム・マネジメント力を身に付ける必要があり、それを果たす校長の役割は大きい。
- 教育課程の全体像を示すグランドデザインを作成する際には、学校評価の活用を一層図るとともに、ワークショップ等を通して目指す子ども像を具体化した上で、学校の取組を考えていくようにする。

2 課題等

- 校長は、リーダーシップを発揮しながら校内組織編成や小中学校・家庭・地域との連携等を進めること、そして職員と共に自校の実態に即した教育課程の編成・実施に挑み続ける姿勢が強く求められている。

第3部会 現職教育

1 主な協議内容

- 教職員の育成，研修体制の構築について校長の方針や課題等を明確に示し，意識化する。全校体制による組織的な取組の推進，プロジェクト等の活用による連携や協働性の向上を目指す。職員及び職員間での対話やコミュニケーションが大切である。
- ミドルリーダーの育成について，意識改革を図ると共に，任せるとともに必要である。
- 校長室だよりを活用，職員指導に役立てている。「学校だより」は，保護者だけでなく職員にも話題になるようなネタを示す。
- 指導の在り方と保護者対応について，職員との日常的なかかわりを大切に，担任を守ることには徹する。校長は最後の砦でありチームでの複数対応，事実確認が大切である。

2 課題等

- OJTによる研修が望ましいが，時間と機会をどう捻出し，研修を進めるか課題である。
- 学校外での事案への対応策が求められる。

第4部会 教育課題①（生徒指導）

1 主な協議内容

- 自己有用感をもたせ，豊かな人間関係を築いていくためには，選択と集中をキーワードとし，まず何を大切にするのか，そしてどこから始めるのか，校長としての明確な教育理念を全職員に示すことが重要である。
- 生徒指導上の諸問題への対応，解決のためには，指導チームを編制し，現状分析を踏まえた上で，いろいろな人が問題を抱えた児童とかかわり，専門機関と連携・協働して教育課題に向かうように努める。

2 課題等

- 共感的な人間関係形成のためには，話し合い活動の充実によりコミュニケーション能力を育むことが求められる。発達段階に応じて，「音声言語」のみによらず，「文字言語」を活用しての話し合い活動が必要である。
- 「中1ギャップ」を「中1チャンス」と捉え，「中1チャンス」の効用を具現化したプログラムを推進していく必要がある。

第5部会 教育課題②（道徳教育）

1 主な協議内容

- それぞれの学校の取組の現状と課題を基に，協議や意見交換を行った。
- 道徳の授業は，学級担任によるところが大きい。力量のある職員を核に，全学級担任が道徳の授業を，自信をもってできる学校をつくる。また，道徳の教科化に向け，今の道徳の授業を深め，「考え，議論する道徳」の授業づくりへの質的転換を進めていくための策を具体的に検討し求めていく。
- 保護者や地域と連携協力した体験活動の推進，評価に道徳の項目を組み入れる等の工夫，結果の公表等で，地域とともに豊かな心，道徳的実践力を育てていく。

2 課題等

- 常に校長として，機会を逃さず職員や保護者，地域に思いを伝え，ダイナミックに策を講じていく心構えが必要である。
- 活力ある学校こそ豊かな心を育成する。学校や学級の雰囲気づくりを大切にする。

第6部会 教育課題③

（社会の変化に対応した教育）

1 主な協議内容

- 情報活用能力を育み，情報モラル教育を進めていくためには，小中学校が連携し継続した指導をしていくことが大切である。
- 外国語活動を充実させ，表現力やコミュニケーション能力を育成するために，指導内容を明確にし，教員の意識改革の向上に努める。
- 地域の特性を生かした環境教育を進めるために，地域との人的ネットワークを構築していくことが重要である。
- 郷土愛をもとにした地域への貢献力を高めるために，社会に開かれたカリキュラムを策定し，地域との連携を強化していく。

2 課題等

- 校長は地域の実態を把握し，カリキュラム・マネジメントの充実を図っていく。
- 社会に開かれた教育課程に向けて，地域社会全体で取り組めるように，人的な繋がりを生かした学校経営が鍵となる。

第7部会 教育課題④（健康教育）

1 主な協議内容

- 児童の生活習慣改善には、学校や保護者、地域、関係機関との連携が重要である。特に学校保健委員会などの運営を工夫しながら、保護者の理解や協力を得るようにする。
- アウトメディアを目指した生活習慣を形成するには、幼保小が連携した共通課題による、幼少期からの具体的な取組が欠かせない。
- 「食物アレルギー」対応では、職員研修やチェック体制構築など、校長のリーダーシップのもと学校が組織的に取り組むことで、安全の確保につながる。

2 課題等

- 生活習慣形成には、幼保、小中学校、家庭との連携が大切であり、互いに課題を共有化し、発達段階を踏まえた取組が必要である。
- 生活習慣の改善を含めて、健康意識を継続させる取組が求められる。

第8部会 教育課題⑤

（特別支援教育，人権教育）

1 主な協議内容

- 特別支援教育における保護者との連携
- 特別支援における幼・小・中連携、関係機関との連携の推進
- 授業のユニバーサル化の推進
- 人権教育、同和教育の本質を理解し、全職員で取り組む職員集団づくり
- 児童が差別や人権問題を自分の問題としてとらえ、実践力を高めるための指導

2 課題等

- 特別支援教育に対する保護者や祖父母の偏見をなかなか払拭できない。今後も、特別支援理解の手立てを工夫するとともに、諸機関につなげ、連携する体制を校長が意図的に設けていくことが必要である。
- 人権教育、同和教育の本質をしっかりと踏まえた上で、一人一人の児童が自分自身の生き方や思いにつながるような学び合いや取組を、今後も地道に継続的に積み上げていくことが大切である。

第9部会 教育課題⑥

（学校，家庭・地域，異校種間の連携）

1 主な協議内容

- 学校と家庭・地域との相互理解を深め、教育効果を高めるために、校長はどのようにリーダーシップを発揮したらよいか。
 - ・ 情報の共有が必要。積極的に情報発信していく。マスコミを利用する。研究会を利用する。地域へカラーポスターを発信する等。
 - ・ マネジメント力を育成する。校長が率先。野球型ではなく、サッカー型のマネジメント力を磨く。自分たちが主体的に動く。
 - ・ 学校運営協議会の積極的活用。コミュニティ・スクールだよりを年3回発行。学校運営基本方針策定にCSが積極的にかかわる。

2 課題等

- チーム学校として、早急にミドルリーダーの育成を図る必要がある。
- 校長は家庭・地域の連携という視点での学校経営ビジョンを明確にする必要がある。

第10部会 危機管理

1 主な協議内容

- 危機管理は、問題が起きた時ではなく、平常時に「報・連・相」による情報交換と情報共有の体制を構築することが重要である。
- 児童の実態と共に、家庭の教育力や地域の教育環境を含めた危機管理が必要である。
- 地域の意識を啓発し、地域との行動連携を基盤とした防災教育を進めていくべきである。
- 生活科や総合的な学習の時間、学校行事等の特別活動とも関連付け、防災教育充実に向けたカリキュラム編成をしていく必要がある。

2 課題等

- 危機管理は、「児童の命を守る」ことが最大のテーマである。学校内外における日常的な情報収集と情報発信に努めていく。
- 職員の危機意識をいかに高めていくか、どう方向付けしていくか、校長の指導力が問われている。